



日本橋神経クリニック 訪問記

6月22日、永島さん、徳満さん、本部の田中さん、東京都支部の峯岸さんと共に、日本橋神経クリニックを訪問してきました。私は、久保田先生からクリニック開業のご挨拶状をいただいていたので、お祝いに伺いたいと思っていたところでしたので、この日のお昼に永島代表と電話していた時に、その日の夕方、お祝いにいく話を伺い、同行させていただきました。馬喰町駅で皆さんと会い、クリニックへ。クリニックに着くと、久保田院長先生が院内を案内してくださいました。

患者さんの「心地よさ」を最優先に～やさしさがいっぱいの院内～

院内を一巡して思ったのは「患者様ファースト」の設計だということでした。診察室の手前の面談室では、てんかん認定看護師の方が患者さんの話をじっくり聞いてくださるのだそうです。「まずは看護師さんに話して緊張をほぐしてほしい」という先生の思いやり、うれしいですね。看護師さんが患者さんのアイスブレイカーになってくださいます。患者さんは緊張がほぐれ、先生は診断のための資料が得られる、まさに WIN-WIN の流れ！診察室は、先生と患者さんが若干斜め気味に向かい合うという「患者様にやさしい」設計。「親近感をもってもらい、圧迫感を与えない」がコンセプトとのこと。椅子の座り心地もエクセレント！なんでも話してみたくなりますね。採血室は、とてもスピーシャス！車いすの方もゆったり入れます。子どもの患者さん向けに、かわいいぬいぐるみなどが置いてありました。

脳波室のベッドは最高！患者さんはすぐに眠りに落ち、入眠時脳波もばっちりとれることでしょう。脳波室の隣には洗髪スペースもあり、検査時に頭髪についたクリームをきれいに洗うことができます。



クリニックのロゴに込められた院長先生の思い

院内の掲示板には、てんかんの情報がびっしり。その中には国際てんかん協会のポスターもありました。そのスローガンは、'Out of the shadows, into the lights'(てんかんを日陰から、日なたへ)です。日本でも「てんかん運動に灯りを！」という思いか